

## 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は表紙を含め七ページである。)

### 受験についての注意

- 一、 監督の指示があるまで、問題を開いてはならない。
- 二、 携帯電話等の電源は切ること。携帯電話等を時計としても使用してはならない。
- 三、 時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 四、 試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の受験番号が自身の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。
- 五、 解答用紙は二枚ある。解答は解答欄に記入すること。
- 六、 監督から試験開始の合図があったら、この問題の冊子が、右に記したページ数通りそろっているかどうか確かめること。
- 七、 筆記具は、H、F、HBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆やボールペンなどを使用してはならない。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 八、 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、 試験時間中に退場してはならない。
- 十、 問題冊子と解答用紙を持ち帰ってはならない。

以上

次の文章を読んで設問に答えなさい。

二〇二〇年の東京オリンピック開催に向けて、今後日本を訪れる外国人は増加すると考えられている。日本政府観光局によれば、二〇一六年十月の時点で、前年度同期比二三・三％増になり、一月からの十ヶ月で二〇〇〇万人を突破しており、過去最高を記憶しているという。今後も、日本政府は積極的に海外からの観光客を誘致するだろうし、東京都も外国人受け入れのための整備を始めている。一般の人々の間にも、外国人観光客相手のボランティアなどを通して交流を行いたいと考えている人はたくさんいるはずだ。

外国の人と交流をするために必要なのは、どのような力だろうか。おそらく、「英語力」と答える人が多いに違いない。もちろん、外国から来た人々とコミュニケーションを図るために、言語は必要だが、日本へ来る観光客の約七割は中国や韓国など東アジアの国々から来る人々だということを考えると、英語が最も有効な言語かどうかは疑問だ。いずれにしても、道案内などの表記に関しては、ローマ字表記や英語での案内が現実的な気はする。しかし、言葉の力があっても伝えたいコンテンツがなければ、せっかくの機会を生かすことは難しい。私は、共通言語としての「英語力」と同じくらい、自国の文化に対する知識と、相手の文化と自分の文化の違いを明確に掴み発信する力が大切だと考えている。

では、そもそも文化とはどういうものだろうか。文化をどう捉えるかは非常に難しいが、現代では(A)①文化を国や民族ごとに不変のものとして理解する(文化本質主義的な)考え方から、②文化も変化するものととらえる(構造主義的な)考え方のほうへ移りつつある。同じ文化を共有する人々は、(B)行動規範や価値観も共有している。たとえば、日本では「女性はスカートをはくが男性ははかない」とか、「(1)きんべんなことはよいこと」だとする考え方などだ。しかし、それらは時代とともに変化する動的なものである。「日本人は〜である」という見方は分かりやすくはあるが、日本人の中に存在するであろう多様性に対する視座が欠如しており、悪くするとステレオタイプになってしまう危険がある。同じ日本人でも年齢や性別、職業などによって、価値判断は異なるし、五〇年前の日本人と現代の日本人では明らかにその行動規範や価値観は変化している。

さて、時代やライフスタイルとともに変容していく身近な文化といえ、食文化ではないだろうか。二〇一三年には、日本食がユネスコの無形文化遺産に登録された。日本人の食文化は、一見ありとあらゆる国の食文化が融合しているように見えるが、伝統的な日本の食文化は変化しながらも我々の生活に密着したところに根付いている。同じように、日本人の生活や食文化に深く根付いているものに、茶を飲む習慣がある。ジュースや炭酸飲料、コーヒーなどの台頭によって、一時期家庭でしか飲まれなくなっていたお茶が、いつの間にかあらゆる食事に合わせて摂れるようになってきたのは、九〇年代にペットボトル

のお茶が出回るようになってからのように思う。

茶の種類も、緑茶、**(ア)**煎茶、ほうじ茶、番茶、麦茶、烏龍茶、ジャスミン茶、紅茶、ハーブティーなど様々で、飲み方も、急須で淹れる場合もあれば、ティーバッグで淹れたり、缶やペットボトルに入って売られているものもある。茶葉を残す飲み方に対して、緑茶を **(2)** ふんまつにした「抹茶」も最近では身近になってきた。抹茶アイス、抹茶ラテ、抹茶フラッペ、抹茶ケーキなどさまざまな物が出回っているが、茶そのものとして飲むよりは、デザートや飲み物として加工されたものが脚光をあびているようだ。近年、緑茶を始めとする茶文化は、ポリフェノールやカテキン、ビタミンCなど、茶葉のもつ栄養素にも注目が集まり、健康食品として欧米でも知られるようになっていく。

ところで、茶はわれわれの生活にあまりにも身近なせいも、若い人たちは茶について **(イ)** 無頓着でよく知らないのではないか。例えば、茶の木はもともと日本に自生していたわけではなく、一二世紀に中国へ留学した栄西という僧侶が日本に苗を持ち帰ったことや、茶は、最初は禅僧たちが座禅の際に眠気を払うものとして飲まれ、薬としても用いられていたことは案外知られていない。ところがこれは事実であり、鎌倉幕府の第二代將軍実朝が二日酔いで気分がすぐれなかった時に、抹茶を出し喜ばれたという **(3)** いつわが今も残っている。

中国から入ってきた茶の木は日本各地に植えられ、独自の喫茶文化を生み出した。例えば、飲み方ひとつをとっても、茶葉を煮出して飲む方法だけでなく、茶葉を摘んで乾かし、石臼で挽いたものに、湯を注いで茶筌という道具で泡立てて飲む方法などがある。後者は抹茶と呼ばれるもので、茶の湯で使われる。一二世紀以降次第に武家や豪商、庶民の間に、嗜好品として広がっていった。

ところで、茶道というと、皆さんはどのようなイメージを持っているだろうか。おしとやかで女らしい女性が茶道を **(ウ)** 嗜むというのが、大方の意見かも知れないが、女性が公の場で茶を点てるようになったのは、明治になってからのことで、それまでは茶人といえれば男性中心だった。現代に伝わる茶の湯を確立したのは、千利休という人だ。彼は、堺の裕福な商人の生まれで、侘茶を確立したことや、織田信長や豊臣秀吉の茶頭を務めたが、秀吉との **(エ)** 確執が元で切腹したことでも有名だ。利休の茶は、四〇〇年以上を経て今も表千家、裏千家、武者小路千家の三千家によって、**(オ)** 伝承されている。

では、戦国時代の武将をはじめ、江戸時代の大名、明治以降の一般の人々によって当時とほぼ同じ形で伝承される茶の湯とはいったいどのようなものなのだろうか。また、それはイギリスの紅茶の種類や飲み方の習慣とどのように異なるのだろうか。

茶の湯はよく、**(c)** 総合芸術とか、「文化の缶詰」などと言われる。茶の湯では、「点て

る茶」を飲む方法を基盤として、芸術を(4)かんしゅうしたり料理を味わう。たとえば、茶の湯を行うためには、茶だけでなく、道具として、茶入れ、茶碗、菓子器、水指などの陶磁器や、茶を入れる棗などの漆器、釜などの金物をはじめとして、掛け軸、建築、造園などが必要となる。能や歌舞伎などの芸能にも様々な美術が関係しているが、一番の違いは、茶の湯では客は(4)かんしゅうするだけでなく、食事や酒でもてなされ茶を飲み、主客一体となって場を作る役目があることと、茶の湯はその精神を禅宗に求めたことであるう。

茶の湯の精神を表すものに「和敬清寂」という言葉がある。「和」は平和の「和」、「敬」は尊敬の「敬」であるが、茶会では、参加した人々が互いを敬い、和をもって場を構築する。さらには、茶の湯に用いられる道具に対しても、その由来や客のためにそれを使ってくれたホストの思いに感謝と敬意を示すという意味である。「清」は清らかさ、清浄、道具や部屋だけでなく清浄な心のありようをめざし、「寂」で表される穏やかで静かな境地にたどり着くことをめざす。「言うは易し(D)」「で、シンプルなこの原理のために生涯にわたって茶の湯の修行を行うが、一学ぶことがあるというのは、海外の人々にはなかなか理解しにくいようだ。ほかに、「一期(E)」「」など有名な言葉だ。昨今、「おもてなし」という言葉が注目を集めているが、茶の湯の精神とも相通じるものだ。

喫茶の習慣といえば、イギリスが本場のように感じる人も多いはずだ。しかし、イギリスで飲まれている紅茶はインドから輸入されたもので、イギリス国内では(5)さいばいされてはいない。一説には、十七世紀初頭にイギリスに最初に紹介されたのは日本の抹茶であったともいわれている。ところで、イギリスで飲まれている紅茶と中国から日本に入ってきた緑茶は、実は同じ植物から作られる。緑茶の葉は、緑色なのに対し、紅茶は発酵して赤褐色になっていることから、英語では緑茶は *green tea*、紅茶は *black tea* と呼ばれる。紅茶を発酵させて飲料にするようになったのは、インドからイギリスへ船で南アフリカの喜望峰を経由する航海の途中で、船倉の気温の変化から醗酵が進み、イギリスに着いた頃には発酵茶となっていたのを飲んだのが始まりだとする説もある。

もともと茶を飲む習慣のなかったヨーロッパの人々は、中国式の茶の淹れ方や茶器も輸入した。貴婦人にとって、中国から手に入れたポットやカップなどの磁器製品を使って、ティーパーティを開き、自分がホストするということが大変流行した時代があったが、日本の茶の湯の作法の影響を受けていたとも言われている。西洋へは東洋から様々なものもたらされた。古代にはシルクロードを通じて絹が、中世には香料が、近世には茶と綿布がヨーロッパへ渡った。角山栄によれば、「香料がヨーロッパのアジア航路開拓の契機となつたとすれば、茶と綿布はヨーロッパの近世資本主義を促進する契機となつた」(茶の世

界史一緑茶の文化と紅茶の文化』(中公新書)だけでなく、ヨーロッパの人々は東洋の「茶の文化」に畏敬と憧憬の念を持っていたという。

ヨーロッパの貴婦人は、喫茶の習慣は中国から、精神性は日本の茶の湯を手本として取り入れたとも言われている。もしそれが事実なら、日本文化が近代ヨーロッパの上流社会に与えた影響は大変大きいと言えるが、そのことは日本の若い人々にはほとんど知られていないのではないかと。イギリス人にとって、アフタヌーンティや、イギリスのあらゆる階層にまで広まった飲茶はイギリスの誇るべき文化だが、茶の湯とイギリスの茶文化の一番大きな違いは、茶の湯の精神性と総合芸術と認められるほど様々な芸術分野と関係が深い点である。

近年、日本は海外で「**F**クールジャパン」と言われている。いったい日本の何が海外の人々にとってクールなのか、日本人には理解しにくいこともある。おそらく、外国の人々にとって、日本のアニメに代表されるポップカルチャーと茶の湯などの伝統文化が混在する日本は、とてもエキゾチックでユニークに映るに違いない。外から見た日本のよさ、個性を理解することは異文化を持つ人々と交流する上でとても大切だ。もし、あなたが外国人々と交流をしたいと思うなら、まずは日本の日常生活の中で自然だと思っ

ていることについて、別の角度から考えてみてはどうだろうか。

問一 傍線部(1)～(5)を漢字に直しなさい。送り仮名のあるものはそれも記しなさい。

- (1) きんべん (2) ふんまつ (3) いつわ (4) かんしょう  
(5) さいばい

問二 傍線部(ア)～(オ)の読みを書きなさい。送り仮名も書きなさい。

- (ア) 煎茶 (イ) 無頓着 (ウ) 嗜む (エ) 確執 (オ) 伝承

問三 左記の①から⑤の文を読んで、文章の内容として一致しているものに○、誤りに×、文章では述べられていない事柄に△、を記しなさい。

- ① イギリスの紅茶と日本の抹茶は、同じ茶葉からできる。  
② 茶道では茶を煮出して飲む。  
③ かつては、イギリスでも日本でも茶は高価で貴重なものだった。  
④ イギリスのアフタヌーンティの習慣は、上流階級にのみに広がった。  
⑤ 日本からもヨーロッパに茶葉は輸出されていた。

問四 (A)「①文化を国や民族ごとに不変のものとして理解する(文化本質主義的な)

考え方」、②文化も変化するものにとらえる(構造主義的な)考え方」について質問します。次の意見は①と②のどちらの考え方から書かれていますか。記号で答えなさい。

(1) 国家や言語集団には固有の文化があり、国民性や気質は文化によって育まれたものである。

(2) インターネットは国家という枠組みを超えて各国の文化を崩壊させる危険を孕んでいるため問題である。

問五 (B)「行動規範や価値観」について、自分で考えて行動規範の例を一つと、価値観の例を一つ書きなさい。

問六 茶の湯が(C)「総合芸術」と言われる理由を、八〇〇～一〇〇〇字で書きなさい。

問七 「言うは易し(D) ( )と「一期(E) ( )」の空所に適切な漢字と仮名を入れなさい。

問八 日本のことを(F)「クールジャパン」という人々がいますが、あなたは、日本がそのように言われることについてどう思いますか。この文章を踏まえて、八〇〇～一〇〇〇字で書きなさい。